

2020年10月25日(日)朝10:10
10月第4共同主日礼拝式説教

聖霊降臨節第22、自由交歓会等
日本アライアンス庄原基督教会

説教題：真のしるしとは(12～)

聖書：マタイ 16章5～12節

<口語訳>

新約聖書25～26頁

マタイ 16章5～12節

<新共同訳>

新約聖書32～ 頁

マタイ 16章5～12節

<新改訳第3版>

新約聖書32～ 頁

マタイ 16章5～12節

<塚本訳>

新約聖書116～117頁

主題：主イエス様から賜った聖霊の導き

によって主の弟子たちは、主の名による
神の罪からの救いを宣べ伝えたように、
私たちも、福音を伝えたい。

序論；

- ◇**マタイ書**は、使徒**マタイ**が、ユダヤ人の立場で**王なる救い主(メシヤ)**なる**神の御子イエス・キリスト**を証言した記録です。
- ◇**マタイ5～7章**は、**神の御子イエス・キリスト様**の山上の垂訓・説教と表現される箇所です。
- ◇本日は**マタイ16:5～12節**の「**真のしるしとは(12～)**」の箇所から、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、弟子たちが、ガリラヤ湖のベツサイダからマダラへ舟で渡った時、パンを持って来るのを忘れてましたが、弟子たちの心の不安を見通し、「信仰の薄い者よ」と、たしなめ、5,000人と4,000人の群衆の給食の出来事を思い出させ、パリサイ人とサドカイ人のパン種(教え)に警戒(気をつけること)をせよと命じられたのです。
- ⇒「**真のしるしとは(12～)**」である主は、パリサイ人らの**真**の目的(ねらい)が、何であるか、気づいてほしかったのです。
- ⇒主は、十字架への最後の旅を決断された。

本論；

◇本日、**マタイ書16:5～12節**から主の**使信**に
思い・心 $\nu\omicron\upsilon\varsigma$ (nouj)をとめます。

◆**マタイ16章5～12節**；使徒**マタイ**は、
「**真のしるしとは(12～)**」との主のみことばを
通して、「**神(天)の国**」の隠されている「**神の
真理・真実**」を示しています。

◇**16:5～12節**；塚本訳◆**パリサイ人のパン種**

「5 向う岸に着いたとき、弟子たちはパンを持って
くるのを忘れていた。

6 するとイエスは弟子たちに、「パリサイ人の
(パン種)とサドカイ人のパン種に注意し、警
戒せよ」と言われた。

7 弟子たちは(その意味がわからず、)「パンを
持ってこなかったこと(を言われる)らしい」と
言って、こそこそ評議をしていた。

8 イエスはそれと知って言われた、「なぜパンの
ないことをこそこそ評議するのか。この信仰の
小さい人たち！

9 まだ解らないのか、覚えていないのか、あの
五千人の五つのパンのとき、いく籠ひろった
か。

10 また、四千人の七つのパンのとき、いく籠ひろったか。

11 パンのことを言ったのではないことが、どうして解らないのか。パリサイ人(のパン種)とサドカイ人のパン種を警戒せよ。」

12 その時(やっど)弟子たちは、イエスがパン種でなく、パリサイ人とサドカイ人との教えを警戒せよ、と言われたことを悟った。と、**使徒マタイ**は主のことばを語っています。

◇**マタイ16:5～12節**は、「向う岸に着いたとき、弟子たちはパンを持ってくるのを忘れていた(5)。「するとイエスは弟子たちに、「パリサイ人の(パン種)とサドカイ人のパン種に注意し、警戒せよ」と言われた(6)。「弟子たちは(その意味がわからず、)「パンを持ってこなかったこと(を言われる)らしい」と言って、こそこそ評議をしていた(7)。「イエスはそれと知って言われた、「なぜパンのないことをこそこそ評議するのか。この信仰の小さい人たち！(8)、まだ解らないのか、覚えていないのか、あの五千人の五つのパンのとき、いく籠ひろったか(9)。また、四千人の七つのパンのとき、いく

籠ひろったか(10)。パンのことを言ったのではないことが、どうして解らないのか。パリサイ人(のパン種)とサドカイ人のパン種を警戒せよ(11)。「その時(やっと)弟子たちは、イエスがパン種でなく、パリサイ人とサドカイ人との教えを警戒せよ、と言われたことを悟った(12)。」と、「**御子イエス・キリスト様**」は、「弟子たち」に、「パリサイ人(のパン種)とサドカイ人のパン種を警戒せよ(11)。」と、言われたのです。

⇒「パン種」は、「酵母」ですから、「パン粉」の中に入ると、「パン粉」全体を膨らませるのです。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、「ご自分」に敵対して、殺害しようとする「パリサイ人」、「サドカイ人」らを警戒するように言われたのです。

⇒「パリサイ人(のパン種)、サドカイ人のパン種」は、前者は、復活を信じ、聖書に熱心に取り組む、後者は、世俗的、政治的で、祭司をもつ人々でありながら、**神**を軽んじる生活をしていたのですが、「**御子イエス・キリスト様**」が自分たちの願う政治的「**王なる救い主(メシヤ)像**」と、違っていたため排除しようとするのではなく、一致していたのです。

⇒教会の歴史を見ても、何度も、政治的に動き、**神信仰**が退廃しました。

⇒ニケア信条、カルケドン信条など素晴らしい信仰告白や教父アウガチヌスや宗教改革者マルチン・ルター、ジャン・カルヴァンなど多彩な**神信仰者**が教会を支えましたが、退廃はとどまりません。

⇒「**御子イエス・キリスト様**」が、寂しいところに退かれたのは、「天のしるし(証拠・論拠)」を求め、主を葬ろうとする敵対者があったからです。主は、勿論、死を恐れての退避ではなく、弟子たちに、主の思いを伝えたいからです。

⇒主は、主の十字架を示すしるしというヨナのしるししか、与えられないと「パリサイ人・サドカイ人」に語られたのです。ヨナは、アッシリヤの首都ニネベに遣わされることを嫌い、3日3夜、大魚の中で過ごすのですが、ニネベに吐き出されるのです。主も、3日3夜墓の中に葬られたのです。

⇒それは、私たちにとっても、大きな恵みのしるしで、主による罪の赦しによって、永遠の救いに与っているのです。

⇒私たちの心にも、本心を偽る「**悪魔・悪霊**」の「**霊**」が、入り込む余地があります。自らの愚かさを認め、「**聖霊**」の恵みを讃美したい。

⇒ I コリント5:6～7;【口語訳】

- 6 あなたがたが誇っているのは、よろしくない。あなたがたは、少しのパン種が粉のかたまり全体をふくらませることを、知らないのか。
- 7 新しい粉のかたまりになるために、古いパン種を取り除きなさい。あなたがたは、事実パン種のない者なのだから。わたしたちの過越の小羊であるキリストは、すでにほふられたのだ。

結論；

- ◇神は、変わらない愛と思いやりの神です。
 - ◇マタイ書は、使徒マタイが、ユダヤ人の立場で王なる救い主(メシヤ)なる神の御子イエス・キリストを証言した記録です。
 - ◇マタイ5～7章は、神の御子イエス・キリスト様の山上の垂訓(説教)の箇所です。
 - ◇本日は**マタイ16:5～12節**の「**真のしるしとは(12～)**」の箇所から、「**神(天)の国**」「**神の真理・真実**」の隠された奥義を心にとめたいと思います。
- ⇒「**御子イエス・キリスト様**」は、弟子たちが、ガリラヤ湖のベツサイダからマダラへ舟で渡った時、パンを持って来るのを忘れてましたが、弟子たちの心の不安を見通し、「信仰の薄い者よ」と、たしなめ、5,000人と4,000人の群衆の給食の出来事を思い出させ、パリサイ人とサドカイ人のパン種(教え)に警戒(気をつけること)をせよと命じられたのです。
- ⇒「**真のしるしとは(12～)**」である主は、パリサイ人らの**真**の目的(ねらい)が、何であるか、気づいてほしかったのです。

⇒主は、十字架への最後の旅を決断された。

⇒ I ペテロ3:3~4;【口語訳】

3 あなたがたは、髪を編み、金の飾りをつけ、
服装をととのえるような外面の飾りではなく、

4 かくれた内なる人、柔和で、しとやかな霊とい
う朽ちることのない飾りを、身につけるべきで
ある。これこそ、神のみまえに、きわめて尊い
ものである。

⇒**神の柔和の霊**は、**神**から与えられるもので、
自分の頑張りや勉勵で身につくものではない
ことを心深くにとどめ、**聖霊**によって、**神の
憐れみ**にお頼りしたい。